

改善報告書

令和 8 年 7 月 28 日

1. 大学名：静岡英和学院大学

2. 認証評価実施年度：令和 5 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2－1

- 人間社会学部コミュニティ福祉学科の収容定員充足率が 0.7 倍未満である点は、改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2－1 について

本学は、令和 5（2023）年度の日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、基準 2－1 において、収容定員充足率が 0.7 倍未満であるため「改善を要する点」として指摘を受けている。

人間社会学部コミュニティ福祉学科の認証評価受審年度以降 4 年間の収容定員充足率は、【資料 2-1-1】に示すように 55%前後で低迷しているが、改善に向けて入学者確保および教育内容の充実に取り組んできた結果、入学定員充足の状況には一定の改善が見られていることから、ここに報告する。

また、本学は学部くり入試を導入しており、今年度の人間社会学部は学部入学定員を充足していることから、学部全体としての入学定員は充足し、その案分による学科配分ベースでは、コミュニティ福祉学科は定員相当数を確保している状況にある。

本改善報告書では、収容定員充足改善に向けた取組みと現況について報告する。

具体的改善策は以下のとおり

【資料 2-1-1】

改善策①

保育・幼児教育メジャーでは、保育士資格、幼稚園教諭（一種）の資格取得が可能となっており、本学の所在地でもある静岡市と令和 7（2025）年 1 月に子育て支援に関する連携協定を締結し、大学内に静岡市が運営する「地域子育て支援センター英和」を開設した。

令和 7（2025）年 3 月 17 日より、大学内の同センターは運営開始となっている。これは、静岡県内では初の試みとなっており、地域の親子が継続的に来訪する実践的な保育環境が学内に整備されたことにより、学生は日々、実際の保育現場と接しながら学ぶことが可能となった。

このような実践的教育環境は全国的に見ても数の少ない特徴的な取組みであり、保育士資格および幼稚園教諭の取得を目指す学生にとって魅力となっている。

これらの取組みを学科の特色として PR を開始し、広報に活用し、学生募集に結びつけてい

る。

【資料 2-1-2】【資料 2-1-3】【資料 2-1-4】【資料 2-1-5】【資料 2-1-6】

改善策②

令和元（2019）年 7 月に富士市と包括連携協定を締結したことに基づき、令和 3（2021）年度より産官学連携による富士市デジタル活用環境構築推進協議会を形成し、富士市内の地域まちづくりセンターにおいて高齢者向けスマートフォン教室を開催している。

本事業は、産官学連携により地域のデジタル・デバインド解消を目的として実施されている取組みであり、本学の学生が講師およびサポート役を担い、教室運営に参画している。

コミュニティ福祉学科には社会福祉メジャーがあり、高齢者の生活理解や生活支援を学ぶうえで、地域における実践的学修機会として機能している。

本事業は開始から 6 年目を迎え、富士市内 26 か所の拠点で実施しており、地域貢献と同時に、本学の教育・研究活動の周知・広報の機会ともなっている。

これにより、地域住民に対する本学および当該学科の認知向上に寄与している。

【資料 2-1-7】【資料 2-1-8】【資料 2-1-9】

改善策③

本学は学部くくり入試を導入しており、2 年次に学科選択を行う仕組みとなっている。

現時点では、コミュニティ福祉学科に在籍する外国人留学生はないが、今年度 人間社会学部に入学した外国人留学生は 97 名となっており、今後の学科選択において外国人留学生の誘引は学科の定員充足に向けた一定の可能性を有している。

今後の学科の在り方について多角的に検討を行う中で、定員充足に向けた新たな方策の一つに外国人留学生の受入れの検討を進めている。

今年度からは必修科目「基礎演習Ⅱ」の開講ゼミに福祉分野を増やし、留学生のみならず多くの学生に福祉・保育の魅力について関心を寄せてもらうための手立てである。

急速に抜本的な改革は難しくとも、今後も外国人留学生も含む在学生に対して、魅力ある福祉・保育分野の発信を今後も継続して行く。

【資料 2-1-10】

改善策④

コミュニティ福祉学科では、令和 6（2024）年度から「大学生と学ぶシリーズ」と題し、学生主体によるワークショップを高校生向けに実施している。

本取組みは、学科の教育内容および学生の学びの実態を高校生に体験を通して伝え、理解してもらうことを目的としたものである。

学生自らが企画・運営を担い、高校生との交流を通して学科の魅力を伝えるとともに、個別相談の機会を設けることで、より身近に本学を感じてもらい、進学先の候補としての本学への関心喚起を図っている。

本取組みは継続的に実施しており、令和 8（2026）年度も継続予定である。

【資料 2-1-11】

改善策⑤

社会福祉士国家試験対策科目として「社会福祉特講Ⅰ・Ⅱ」に加え、「学外講師による対策講座」を開講し、国家試験対策の強化を図った。

これにより、令和7（2025）年度の世界福祉士国家試験結果は受験者17名に対し合格者11名、合格率65%と全国平均の60%を上回る結果となった。

この合格率は、直近5年間において最も高い合格率となっている。

また、公務員対策講座を前期4回、後期6回実施し、講座参加者からは刑務官1名、静岡市（福祉行政職）1名の計2名が合格した。

4年時の資格取得や公務員対策講座に加え、教員とキャリア支援課職員との協働により、高い就職率を維持し、社会福祉施設、認定こども園、幼稚園、保育園、公務員、高等学校教諭など地域に貢献する人材を輩出している。

卒業年度生の就職率は前年度に続き100%を維持している。

具体的には就職希望者33名が全員就職という結果となっているおり、地域社会に貢献できる人材育成を行っている。

【資料2-1-12】

改善策⑥

静岡県内に保育及び福祉コースを設置する高校が18校あることから、令和8（2026）年度入試に「総合型選抜 保育科・福祉科等在籍型」の入試制度を新設した。

これは高等学校の保育科又は福祉科（総合学科の保育・福祉系列を含む）を卒業見込みの者が出願資格を持ち、受験するものである。

制度新設にあたり、コミュニティ福祉学科の教員が高校現場に出向き説明を行うとともに、現在の高校現場での保育及び福祉コースでの実情に対し耳を傾け、情報交換を交えて実施した。

その結果、令和8（2026）年度入試では2名の出願があり、2名が入学する結果となっている。

この入試制度の導入により、前年度までよりも保育・福祉に興味関心を持つ学生の在籍が明らかであることから、1年次の必修科目「基礎演習Ⅱ」の開講ゼミに福祉分野のゼミを増やし、より多くの学生に保育・福祉について関心を寄せてもらえるよう努めた。

また、令和7（2025）年度入学者選抜からは「メイプルスカシップ」という名称による特待生制度を新設し、「全国高等学校家庭科保育技術検定が準1級以上の者」、「介護福祉士国家試験に合格した者」については、入学年次の授業料の半額を減額する制度を設け、コミュニティ福祉学科への誘導を図った。

これにより、制度設立となる令和7（2025）年度入試において2名の対象者を入学に結びつける結果となっている。

【資料2-1-13】

【結果】

①～⑥の改善策を講じた結果、コミュニティ福祉学科の入学定員充足率に改善が見られた。

現在、コミュニティ福祉学科の収容定員充足率の0.7倍は依然として下回っており、今

までの取組みを継続的に実施していくことで収容定員充足率についても今後改善が見込まれると捉えている。

今後は特に外国人留学生の入学段階での積極的な受入れに加え、コミュニティ福祉学科に外国人留学生が魅力と感じるカリキュラムを打ち出し、2年次の学科選択の際には日本人に加えてコミュニティ福祉学科にも留学生が入ってくれるよう誘引を高めていく。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

- ・【資料 2-1-1】過去4年間の収容定員充足率及び入学定員充足率推移表
- ・【資料 2-1-2】学校案内パンフレット抜粋
- ・【資料 2-1-3】令和7年（2025年）3月18日 静岡新聞記事
- ・【資料 2-1-4】令和7年（2025年）7月25日 静岡新聞記事
- ・【資料 2-1-5】本学HP紹介記事（コミュニティ福祉学科での保育実習指導の授業風景を紹介します）
- ・【資料 2-1-6】令和7（2025）年度 子育て支援センター利用状況
- ・【資料 2-1-7】学校案内パンフレット抜粋
- ・【資料 2-1-8】令和7年度 第2回 富士市デジタル勝代環境構築推進協議会資料一式
- ・【資料 2-1-9】令和7年（2025年）10月8日 静岡新聞記事
- ・【資料 2-1-10】令和7（2025）年度 事業報告書
- ・【資料 2-1-11】大学生と学ぶシリーズ関連資料一式
- ・【資料 2-1-12】社会福祉士国家試験合格者（新卒者） 過去5年間
- ・【資料 2-1-13】2027年度学生募集要項
(総合選抜保育科・福祉科等在籍型 抜粋、メイプルスカラシップ 抜粋)